

## 平成28年度第1回ゆりはま創生総合戦略会議 議事録

日 時 平成28年5月12日(木) 10時30分～11時50分  
場 所 湯梨浜町役場 講堂  
出席者 中島 守、西本 稔、宮脇 正道、山田 修平、遠藤 公章、井土 美智子、  
山村 靖、若山 敬之、小野寺 仁史、加藤 一、野口 智恵子、佐伯 健二、  
杉本 貴美子、(欠席者：坂田 康則、森田 宏樹)  
事務局 山根孝幸副町長、岩崎正一郎みらい創造室長、船木宣孝係長、會見 典恵主事、  
谷岡 雅也主事、  
総務課長 蔵本 知純、議会事務局長 川本 栄二、出納室長 川田 信行、  
建設水道課長 小林 長志、産業振興課長 前田 啓嗣、企画課長 森 輝信、  
町民課長 重松 雅文、子育て支援課長 丸 真美、総合福祉課長 米増 誠、  
健康推進課長 瀬戸 隆行、長寿福祉課長 竹本 恵子、  
教育総務課長 西原 信男、生涯学習・人権推進課長 山田 昭彦、  
中央公民館長 富山 弘道、図書館長 尾嶋 敏彦、  
国民宿舎水明荘支配人 中山 明、  
鳥取県中部総合事務所地域振興局参事 中本修(コンシェルジュ)

### 1. 開会

(副町長)

おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

本日進行役をさせていただきます。地方創生担当副町長の山根でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それではこれより、平成28年度第1回ゆりはま創生総合戦略会議を開催いたします。

まずはじめに、宮脇町長のほうからあいさつをお願いします。

### 2. 町長あいさつ

(委員)

皆様、こんにちは。委員の皆様には大変ご多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。

今日は、昨年10月に策定いたしました湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況等につきましてKPIということでその評価をすることが求められておりまして、評価の状況を先だつて庁内の組織でとりまとめを行いまして、委員の皆様にご報告させていただいて、ご意見を伺いたいということが大きな要素でございます。

中身を見ていますと、比較的順調に良くできたものと、そうじゃなくてまだなかなか遅れているかなという部分もあろうかと思えます。そのあたりネジをまいたりすることも今後必

要だと思っておりますので、是非皆さんのご忌憚のない意見をいただければありがたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

### 3. 委員紹介

(副町長)

ありがとうございます。続きまして委員の紹介にうつりたいと思います。今回、4月の人事異動等によりまして新たに委員に委嘱された方もいらっしゃいますので、名簿の順番にご紹介をさせていただきます。

～各委員、事務局紹介～

### 4. 会長あいさつ

(副町長)

それでは開催にあたり、山田会長よりご挨拶をお願いします。また、これ以降の進行を山田会長にお願いしたいと思います。

(会長)

あらためまして、皆さんこんにちは。今日はご出席いただきましてどうもありがとうございます。

さて、この総合戦略ですけれども町長さんのご挨拶にありましてとおり、昨年の10月末に策定しました。これとタイアップするように人口ビジョンが8月31日にできています。地方創生の具体的なものをどう実行するかというためにこの人口ビジョンと総合戦略がつくられたということで、総合戦略は大きく言うと3つの柱をつくっていきまして、一つは「活力ある元気なまち」ということで、仕事関係、産業関係これが一つ。それから「安心して暮らせるまち」というので、広い意味の生活・環境・福祉ですけれどもその一つの大きな指標が、赤ちゃんがどれくらい生まれるだろうか、これが指標だったと思います。そして3つ目が「みんなで作るまち」という中で、移住定住であるとかCCRCであるとかそういう取り組みを骨にしてそれぞれ数値目標があってそれを実現するために沢山の事業が用意されている。こういうような施策でありますけれども、今日はそうしたものが27年度どう進んできてそして今どんな数値になっているのか、今度何が課題かというのを皆さんでご議論いただければと思っております。

12時までの時間を用意しております。どうぞよろしく申し上げます。

### 5. 副会長の選出について

(会長)

それでは、次第に沿って進めていきたいと思っております。

本会には副会長を置いていたんですけれども、副会長の職が欠員になっています。副会長は委員の互選により決める事となっておりますが、どういたしましょう。

事務局で案を出していただいでよろしいでしょうか。

(室長)

失礼します。事務局案といたしまして、女性団体連絡協議会の井土さんの方に副会長をお願いできればということをご提案させていただきます。

(会長)

よろしいでしょうか。【異議なし】

それでは井土さんよろしくお祈いします。

一言よろしくお祈いします。

(副会長)

ご紹介いただきました、井土と申します。女性団体から参ってお祈います。

皆様のお役に立てるかどうかもとても心配ですが、皆様のご指導をいただきながら務めさせていたきたいと思ひますので、よろしくお祈いします。

## 6. 湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るK P I 及び具体的事業の進捗状況と取組状況について

(会長)

それでは、湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るK P I 及び具体的事業の進捗状況と取組状況について、事務局からご報告をお祈いします。

(室長)

それでは説明させていただきます。

資料の方はK P I の一覧の「資料1」と具体的事業一覧の「資料2」をご用意いただければと思ひます。

「資料1」につきましてK P I の状況と、「資料2」につきましては各事業の平成27年度の実施状況並びに平成28年度の今後取り組んでいく事業でございます、重点は「資料1」で説明をさせていただきますと思ひます。

《「基本目標 I 活力ある元気なまち」を資料に沿って説明》

(会長)

何かご意見があればお祈いします。

(委員)

これは前に聞くべき話だったと思ひますが、新規就業者数があるんですけども、これ年々減ってますよね、これはやっぱり人口が減っているということと関連しているのでしょうか。

(室長)

この要因につきましては、ハローワークの方とお話しはさせていただいたんですが、詳細な分析というのが分かりづらいというのが正直なところだそうでございます。

求人数につきましては、平均若しくは増加傾向にございますが、この求人数につきまして

は比較が違いまして、本町の企業が求人される数でしてこちらに載せておりますのが、本町の住民が町内若しくは町外の企業にハローワークを通じて就職された数という数字を載せている関係で、若干求人と新規に雇用された方との数の分析が難しいものでございますから、要因というのが分からないんですが、実績としては若干減っているというものでございます。

(会長)

これはハローワークを通じてということですか。

ハローワークを通していない新規採用は入っていないということですか。学卒者とか。

高校からすぐ企業とか、大学からすぐ企業とかというのはハローワークを通さないと思いますが。そういう数字は入っていないということですか。

(室長)

はい、今回の指標でどの数値を使うかということで、なかなか測り兼ねるものが多いものですから、本町の指標としましてはハローワークの数値を使うということですか。

(会長)

他には何かありますか。それでは基本目標Ⅱのところをお願いします。

(室長)

《「基本目標Ⅱ安心して暮らせるまち」を資料に沿って説明》

(会長)

基本目標Ⅱについてはいかがでしょうか。

(委員)

子育て環境の推進の中で、故郷で暮らしたい児童の割合というのが平成31年度目標70%以上に対して実施されたら59%だったということなんですが、これはどのように評価をされているのでしょうか。上に上げていくために今後どのようなことされるのでしょうか。

(教育総務課長)

このアンケートですが、今年の2月に小中学校で実施をさせていただいたという事です。こちらに暮らしたいという気持ちを持っておられる子どもさんが現在では59%ということで目標の70%に設定をさせていただいているところです。

これにつきましては、今後今年度から取り組む予定にしているんですけど、ふるさと教育についてももう少し力をいれていこうという思いを持っております。それぞれの小学校、中学校で地域に伝わる伝統・歴史・文化等についても一度見直していくような教育内容の設定をしていきたいということで、ふるさと教育の推進に力を入れていきたいということで、目標としては70%までもっていききたいなという気持ちを持っているところでございます。

(会長)

このアンケートですけど、設定の考え方では小中高で実施と書いてあって、実績のところでは高校がないんですけど、高校は今後ということですか。

(教育総務課長)

高校から大学に進学されるというところもありますけど、出来れば高校生の状況についても何らかの形でアンケートをとっていきたいということを含みながらということでございます。

(委員)

小学校、中学校、高校にいくに従ってその割合が減ってきているというのが実態でして、高校の分が特に問題であって、県外に出てなかなか帰ってこないというのが高校生なんですね。高校生ということになると、広域的な取り組みになってくるんで、一町だけではなかなか取り組めない問題なんで、中部全体で取り組むとかというのを考えないと高校の対応というのは大事だと思うんですね。

(会長)

鳥取県で取り組まなきゃいけないですね。

(教育総務課長)

その関係で言いますと、平成28年度からなんですけど、県のふるさと奨学資金の鳥取県に帰った方については、それを支援しますよという県の制度がございます。それに上乘せをする形で湯梨浜町も今年度からふるさと人材奨学支援制度というのを設けております。

その条件といたしましては、湯梨浜町に帰ってきてくださいよという条件を設けて県の助成分のその上にさらに嵩上げをしていくという制度を設けたりして、そのあたりも含めてふるさと教育といいますか、湯梨浜町への定住促進も対策を講じていきたいなと思っている所でございます。

(会長)

他にいかがでしょうか。

(委員)

今のお話しの関連で言いますと、ここには小学校と中学校だけが載せてあるわけなんですけど、やっぱり小学校よりも中学生になるとその率が落ちているというのが現実ですから、先ほど佐伯委員がおっしゃいましたように高校生になるとさらにそれが変わってくるということがあって、小学生に対してはどうやるか、中学生に対してはどうやるか、範囲を広げて高校生についてはどういうことをやるかみたいな、そういう取り組みの方法を考えてみる必要があるかもしれませんね。

(会長)

一番大きなところは高校生ですね。

ちょっと別のところで、合計特殊出生率が非常に多くなって嬉しいことですが、出生数は前年やその前と比べると絶対数では減ってるという。ここは結局、当該の女性の数が減ってるから出生率が伸びても絶対数は少ないという読み方をしたらいいんですか。

(室長)

26年度が149名で、27年度が143名という数字が出ておりますが、合計特殊出生率は前年度2.06ということで0.02減少してきております。

会長さんが言われますとおり、15歳から49歳までの女性の数が影響しているのは確実

なものだと思っております。

(委員)

大きな目で見ますと、毎年成人式の時に申し上げるんですけど、今年成人された方が団塊の世代の頃に比べて全国で250万人だったのが、100万人程度になっている。それくらい減っているということを申し上げて、その上で町の今年成人された方は何人でそれはこれまでと比べるとどうだという数から見ていくと、明らかに分母の方が逆ピラミッドで減ってきている訳ですから、合計特殊出生率が上がるだけでは人口の回復には至らないということが今の状況で、今後少なくとも生まれてくる赤ちゃんもどんどん減ってきている訳ですから、子ども達を産める年に永遠になっていくまでは、維持できるようになっていくまでは、増える体制になってこない、そういうことがありまして、大変言うほど簡単なことではないなと思っております。

(会長)

この戦略の大前提が人口ビジョンとからんでますからね。

他にはいかがですか。

それでは、基本目標Ⅲをお願いします。

(室長)

《「基本目標Ⅲ町民みんなか創るまち」を資料に沿って説明》

(会長)

いかがでしょうか。

(委員)

内容に関する質問ではないんですけども、ここの現状値という数字がさっきのページで見ている時、現状値というのは多分総合戦略が出来た時点の数字で上がっているものかと、いう理解でしていたんですが、ところが新規自主防災組織ですとか集会所バリアフリー件数というのが両方0となっているとなると、何か不突合。本来あった数字はやっぱり生かしてあげていくつ増えたという形になくちゃいけないと思います。

(会長)

混在していますね。

(委員)

いかがでしょう。

(室長)

はい、修正させていただきます。

(委員)

次回からは27年の総合戦略を策定した時の数字にして、その後いくつ増えたという表示にしていだければ。

(会長)

基準値を書いておいて1年ごとにいくつ増えたと書くようにしてください。

他はいかがでしょうか。

(委員)

他の市町の人に聞きますと、住むなら湯梨浜町だとよく聞くんですが、転入転出異動のところで、どういう所から転入されてどういう所へ転出されているというようなことは、分かるでしょうか。

(委員)

数少ない例でいえば、若者夫婦住宅支援事業で来られた人はどこが多かったですか。

(室長)

先ほどの6件の数字の根拠でございますが、本町制度を使いまして転入されましたのが、まずは若者夫婦関係の助成金を使われて転入された方は、倉吉市の方が2件、琴浦町、三朝町でございます。もう一つ県の助成事業もございまして、そちらのほうは県外の方が対象になります。そちらの方につきましては、神奈川県、長野県、千葉のほうから来られているんですけど、一時的に町民になっておられてカウントの数が違ってまいります、千葉県の方だとかがいっぱいいます。

あと、国のほうがRESASと申しましてビッグデータを使用して人口異動のほうをやっております。直近の数字につきましてはまだその数字は出ておりませんが、前年度の数値でまいりますと、転入のほうは県外で多いのが大阪府からが多いです。その次が兵庫県、岡山県、東京都ということで、大阪から27世帯、兵庫から23世帯、岡山から20世帯、東京から16世帯で、その他の県ということで57世帯という転入につきましてはそういった数字がございます。

県内の異動を見ますと、一番多いのが倉吉市、次が鳥取市、北栄町、米子市、琴浦町、こういった順になっております。以上です。

(会長)

それは仕事ありきなんですか、住居ありきなんですか。その辺はどうなんでしょうね。

仕事関係でおいでになったことなのか、あるいは湯梨浜へ住みたいから来られたのか。いわゆる動機がなんだろうということと、じゃあ住居ありきの方はどこでどんな風にお知りになって湯梨浜を選ばれたのかとか、その辺が今後の手掛かりになるのかもかもしれません。ちょっとまた教えていただいたら。

(委員)

私は仕事で関わっている時によく聞くお話しで、旧羽合地区に住みたいという方が多くあるんですけど、なかなか建てる土地が少ないというのがあります。

ひとつには、今分譲地が2か所出来つつあるんですけど、事業者さんから聞くのは、ある一定の大きな規模になると出来た道路は自動的に町のものになるという制度があるんですけど、中規模の10区画とかそのぐらいのレベルですと道路というのが分譲業者の名前で残ってしまう、寄付を受けていただけないということで、ちょっと躊躇されるというケースがあるのと、その規模で農地を宅地にする時に建売というやり方でないと許可が出ない、そう

いう2つ事情に合わないケースがあるということで、そのあたりがクリア出来ればもう少し住宅地があれば住みたいなという、特に若い世代の方が多いようなので、そういう事も検討していただければなと思います。

(委員)

おっしゃるようなことも実際ありまして、町道として認定しようと思うと行き止まり道路はダメですよとか、道路の幅員とかあるわけなんですけど、町としてはなるべくそうやってすることがいい町づくりにつながると、道路の指定とか旗竿地に幅員を決めたりしてやっていたら、その町の道路としての能力とか一貫性みたいなものが保てないようなこともあって、ちょっと難しい所なんですけども、先だってちょっと長瀬地内であった開発については多少そのあたりも考慮して町のほうも促進したという事例はございましたけれども、課題だともっております。

(委員)

そこに住まわれる方の将来的なことを考えた時にはということもありますので。

(会長)

他にいかがですか。

では「資料2」の説明をお願いします。

(室長)

《具体的事業の進捗状況と取組状況について「資料2」に沿って説明》

本来ですと111という多くの事業がございますして全てについてご説明すべき所でございますが、新規事業並びに国の交付金を使った事業の説明をさせていただきました。以上です。

(会長)

何かお気づきの点がございましたら。

細かいんですけども、93番の予算が630円、97番の予算が3,000円。これは間違いの数値ではないかと思えます。

(室長)

はい、誤りです。単位は千円となります。訂正いたします。

(会長)

事務局のほうからせつかく委員の方がおいでになっているんで、この点困っているんですけどもこれはどうなんだろうとか問いかけがあったら、もしあればおっしゃっていただいたら色んな意見出ると思いますが。

(委員)

ひとつはCCRCの事ですけども、生涯活躍のまち。これが今年度まちづくり会社を作って具体的な中身を進めていくということになってはいますが、もう少し進度を早めたいというふうに思っております、会長も大学の理事長をしておられましてそういった立場からご意



見も伺っておりますし、私自身も1年間かけてスケジュール作りとか図面作りを思っているようではちょっと時間が掛けすぎなんじゃないかなというふうにも思っております、その辺進度を早めてまいりたいと思いますので、またまちづくり会社を設立するにあたってのご参画いただいたり意見を頂戴する機会もあると思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。

それともう一つは、婚活の部分で中部広域連合で取り組むことといたしておりますが、各市町が負担金を出し合って地方創生のお金を充ててするという事なんですけど、その他にも鳥取県でツヴァイという所が婚活の事業を国のお金を受けてやりたいというのがあって、中部地区は揃って広域連合の枠でそれをやるというので取り組まれてはどうですかという話がありまして、中身聞かせていただきましたら、東京のほうに出向いて行ってやったりとか、重ならないような部分の内容のようできて、いいことだからお金もいりませんし、仕掛けは全部向こうが準備してこちらは意見を言えばいいという形になると思いますので、取り組もうということになりましたから、中部地区はだいぶこの婚活活動が盛んになってくるというふうに思っております。

(会長)

他にいかがでしょうか。

(委員)

個別の事業でどうっていうことではないんですが、よく聞くのが地方創生の国の助成金の使い勝手が悪いという話をよく聞くんですが、どういうことかなと今思うんですね。どの町でもそういうふう感じておられるならば、具体的にどういう場面でどうなのかっていうのを参考までに聞かせていただければ。

(室長)

言われた通りでございまして、昨年まではいわゆる先行型で地盤を固めていくというので、ある程度幅広く市町村の裁量によって総合戦略に伴いますものは事業を認めていただいたということと、あと消費喚起という事業がございまして、幅広くやって参ったということで、国が考えておりますのが地盤が固まったんでタイプⅠという事業で一步進んで、さらに平成27年度の後半に加速化交付金ということで本年度に全部繰越するんですが、さらに進めていくと。平成28年度におきましては地域再生法という法への位置付けをもってさらに進めていくと。ただ、今までは10分の10の助成でございましたが、今後は2分の1になると。残りにつきましては交付税措置がございましてという国の説明でございまして。

平成27年度で実施して参りました事業につきましては、同じことをやってもいけないという国の指導がございまして、どんどん深化していくもの、自立性のあるもの、自主性のあるもの、そして先駆性のあるもののみが対象になるもんですから、既存ですつとやっていきたいという事業につきましては、交付税の算定の基礎には入ろうかと思いますが、実額の補助金等という形では国から降りてこないもんですから、その点が財政的な面から見ますと苦しいのかなと。

普通交付税等は国全体としてのいわゆる出口ベースという言葉がよく使われるんですけ

ども、国から各県及び市町村に配られるいわゆる地方交付税の総額があまり変わらないんですが、その内容が地方創生分は確保しましたという国の説明なものですから、財政的にはちょっと使いにくいのかなという部分はございます。

(委員)

結局裁量の範囲が減ったといいますか、先ほど申しました通り先駆性だとか色んな要素をきちんと書かなきゃならない。作文の上手、下手も言われますけども、そういうこともあって私共もしがみついて頑張っってなんとか通してもらったりしているんですけども。

それから給付型はダメだということになったんですが、例えば1歳未満時の家庭内保育をやろうとした時に、それを給付型で片付けるとちょっとおかしいなという気持ちを持っているんです。1歳未満時は家庭で育てるほうがいいだろうから、それを支援するために設けた制度ですから。それは子どもを親たるものが子どもを家で育てる、そうした人に対して支援するお金ですから、ちょっとその福祉給付金とかバラマキとは違うんですよ。反射的な利益としては、それをやることによって例えば1歳未満時が3人子ども園に入れば保育士は1人付けなきゃいけないということになれば、そっちの方の財源としては減らすことができる訳ですよ。要するに3人家でみれば1人分の保育士の人件費が減らせるということもありますんで、財政的なメリットもある意味ある訳です。両方の正しさがあって、それは給付じゃないでしょという主張をちょっとしていかなければならないんですけど、それはこれからの議論で、今の段階ではダメなような言い方をしていると。

これまでは、地方創生交付金の中で認めてくれてたけども、そういう変化もあるということですよ。

(会長)

他にはいかがですか。

そうしますともう一つあるようですので、湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改正についてということで、「資料3」の説明をお願いします。

## 7. 湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改正について

(室長)

それでは「資料3」をご覧くださいければと思います。総合戦略の部分追加という形での説明になります。

赤字で示しております所を追加をしたいということでございます。基本目標Ⅲの町民みんなが創るまちの中の、いわゆるこちらが移住定住を中心といたしました、そしてさらには現在もお住まいの皆様のもちづくりに関しても活発にやっていきましょうという中身でございしますが、その中にも昨年策定いたしました総合戦略におきましては、ソフトを中心とした内容にしておりました。ただ、そうは言いましてもいわゆる基盤整備部分についても追加をしてソフトとハードと共に整備していく必要があるかということがございますので、基本的方向の丸の三つ目のところに地域住民が主体的・意欲的に取り組む地域を守る防災体制づくりや、だれもが参加しやすい拠点づくりの後に、「基盤整備」ということを追加をさせ

ていただきたいということです。

次は裏面でございます。②番、まちのにぎわい創出や拠点の形成という部分も上から丸の五つ目でございます。「山陰自動車道（北条道路）の観光・企業誘致への活用及び緊急時、福祉、健康対応のためのユニバーサルデザインによる道路などの基盤整備を推進」というものを追加したいと思います。

それと具体的事業ということで、四角の下から三つ目でございます。「山陰道からのアクセス道及びユニバーサルデザインによる基盤整備事業の推進」という、こういった基盤整備関係のものも追加をさせていただければというものでございます。以上でございます。

（会長）

よろしいですか。

（委員）

ちょうど今日の新聞にも載っておりましたけども、日本海新聞で県の戦略の実施状況のところで見直しをされるということで、このような話のものはなるべく委員の皆さんにはご迷惑掛けることになるかもしれませんけども、ダイナミックにある程度取捨をしたりしながら織り込むことは織り込んでいってしっかりやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

（会長）

各委員の皆さんから、これは言っておきたいということがあれば。

よろしいですか。

では、その他のところで今後のスケジュール等お願いします。

## 8. その他

（室長）

それでは今後のスケジュールでございます。今回5月に開催いたしました。次回の予定でございますが、次回は11月の下旬あたりを目標に開催をさせていただきたいと思っております。その内容につきましては、上期の28年度進捗状況のご報告と次年度への事業へ向けて本町での予算編成時期の前段といたしまして皆様方のご意見をお聞きして、次年度への予算へ反映したいという、そういう目的で11月に開催をしたいというものでございます。以上でございます。

（会長）

よろしいですか。では11月の時には28年度上半期の状況を聞きながら来年度に向けて是非皆さんからこちょっと力を入れた方がいいんじゃないとか、そこら辺のご意見があればお考えいただいて、またご意見を伺わせていただければありがたいと思っております。

後ろのほうの事務局の皆様、これは何か言っておきたいということがあれば、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは今日の議題は終わったようであります、ありがとうございました。